

# 平成 27 年度 学校法人 三幸学園 名古屋医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 石川克明  
学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 尾石紀之

## 1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年 3 回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ・人間性を高める教育の実践

「相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

### ・挨拶指導、社会人基礎力向上

来客を意識した挨拶指導、HR を使ったクラス内で、これまでより質の高い指導を実施している。また社会人基礎力向上のため、出欠席指導、報連相といった基本的な生活習慣の指導にも力を入れている。

### ・皆精勤 70%以上

### ・退学率 5%以内

## ② 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生の声が小さいと感じることはないが、挨拶に関しては校風のようなもののように感じる。目標にしくなくてもできる学校になるといいのではないかと思う。
- ・就職や実習で感じることは、よく訓練されているように感じる。学生の受け答えが似ているように思

う。就職後は、ゴールデンウィークくらいからやっと自分が出てくるように思う。先生に言われたからやるのではなく、生徒自身が変わって出来ていくようになることが大切だと感じる。

- ・他校に比べると挨拶ができてるように感じる。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

【評価項目】	
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

#### ① 課題

- ・業界のニーズに基づき、教育目標や育成人材像を設定していく精度を高める

#### ② 今後の改善方策

- ・企業や業界団体との関係性を高めていく活動を通じ、業界動向を正確に把握し、情報の精度を高める
- ・収集した情報を多面的に評価し、教育課程の編成に活用していく仕組みを構築する

#### ③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、目指す人材育成像を「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」と設定した。これらを踏まえて、医療校の目指す人材育成像を「〇〇のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」と設定し、全教職員への浸透を実施している。

業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、教育課程編成委員会を実施し教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・知識も大切だが、「気づく力」が大切と感じる。学校でどこまで学べるかが難しいところだが、部門の目標である「考え・動ける人材」を育成してもらいたい。PCDAサイクルなどを施設では利用して指導をしている。学生においてもそういったレベルでできるといいのではないかと思う。
- ・今の子どもたちは、「一歩控えている」と感じる。そういった子どもたちに手を差し伸べることをしていかなければならないと感じる。手間だと感じることも多いが、それをやらなければ今の子どもたちは育たない。

学生の特性は、校風だと感じる。その風を変えるためには、「やらせる」「癖づける」をしていく必要がある。しかし「まじめな子」であるという校風は変えてはならないと感じる。

・業界のニーズといっても、病院の数だけニーズもあるので、完全にそれらを網羅するのは難しいと考える。病院のニーズは、採用した後に対応できることもある。学校だけに担わせるのは疑問を感じる。近年学生が「怒られないように」と考え、動いていると感じることが多い。「怒られる」ことになれば、そこから学べるかがニーズであると感じるところがある。偕行会では、失敗を恐れず手を上げる人間の方が評価される。職種間の壁が低いのも法人の特徴であり、そういった社風が出来ているのではないかと感じる。職場では、他職種（医療事務だけでなく、看護師など）と仲良くなる、人間関係を築く、連携をとることを意識させている。医療事務は女性の社会でもあるので、特にそういったことを大切にしている。

## （２）学校運営

【評価項目】	
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

### ① 課題

- ・業務の更なる効率化が課題。

### ② 今後の改善方策

- ・求める人材の情報共有

### ③ 特記事項

年4回、定期的に全教職員・講師に向けての会議を実施し、運営方針の浸透と共に、情報共有を積極的に行なっている。

学則に定めた学校の目的、及びそれを達成するための教育目標に基づき、校長の指示の下、副校長は理事会の承認を得て、学校の年度毎の「事業計画（経営計画）」を策定している。「事業計画（経営計画）」には予算等を明示している。各学科、校務分掌組織は「事業計画（経営計画）」により年間の予算等の運営計画を策定して、業務を遂行する。

- ・三幸学園のスケールメリットを活かし、姉妹校間で情報や資料を共有し業務効率化を行っている。また、各雇用形態に準じ、就業規則、職員行動指針を設定し、職員会議にて共有し、就業規則の

徹底を行っている。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・「人事・給与に関する整備」については、介護現場でも問われているところである。給与規定・就業規則が決まっていることは当たり前ではあるが、昇格規定が明確になっているといいのではないか。また、地域社会へのコンプライアンスは、対地域に対して自分たちがどうあるかという観点で情報発信をすることが大切なのではないかと感じる。例) 学校のルール・個人情報の取扱い・教員向けの定期的な勉強会など。

・現場ではU S Bを指紋認証・パスワードがあるものなどを使用している。また、施設の中でもインターネットにつながるパソコンを限定する。などの取り組みをしている。近隣の施設では、U S Bを紛失したことが新聞に掲載され、利用者が減少した。そういった話を学生にも伝えていっていただけると良いのではないかと感じる。

・コンプライアンス・セクハラなどは委員会があり、相談できる環境を作っていることが重要である。

### (3) 教育活動

【評価項目】	
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

### ① 課題

- ・更なる教育活動の質の向上（社会ニーズの取り込み、体系化、教育手法の開発）
- ・授業及び実習先評価の精度向上と教育への反映
- ・業界と連携した人材の確保

### ② 今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会を元に、社会のニーズに対応した実践的な職業教育カリキュラムを策定する
- ・教員の質の向上を目的に、授業評価と実習先の環境及び教育内容の向上に努めるべく、各評価項目の見直しを実施する
- ・産学連携による授業の質向上

### ③ 特記事項

- ・平成 26 年度より各実習先様へ実習アンケートを実施依頼し、本校学生の現場における適切な外部評価の把握と教育機会の改善指針として取り組んでいる。
- ・トライアクションという名称で担任の指導・意識レベルを統一する取り組みを導入している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ホームページに掲載するだけでは難しいのではないかと、教職員が施設側の人間と関係性を利用し、引っ張っていくしかないのではないかと。待ちの姿勢では人材は見つからない。
- ・看護の学校では、現場から教員へという道がある程度出来ている。しかし、「医療事務」という分野では、何がやれるのかが現場で働いている人間にはわかりにくい。何をしてほしいのか、求めているのかをもっと明確にしなければならぬと感じる。現場の人間が教育現場にたつのは今ではあたり前になっている。今回のような話題の交流ができる機会を設けていくことが大切だとも感じる。

## （４）学修成果

【評価項目】	
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

### ① 課題

- ・資格試験の受験率及び資格取得率の更なる向上
- ・卒業生の社会的な活躍の情報収集と教育活動への反映

### ② 今後の改善方策

- ・資格取得に当たる動機づけ及び団体受験の手続きなどの強化をクラス単位にて実施する
- ・教科会の中で資格取得対策の強化をすると共に、任意の資格対策の補講を充実する

- ・校友会を中心とした活動を積極的かつ戦略的に支援することで全体的な把握に努める
- ・H29年度同窓会会合の開催準備を進め、卒業生の把握を実施予定。

### ③ 特記事項

- ・平成27年度就職決定率（平成28年3月31日現在）  
学科別）医療秘書科 99.3% 診療情報管理士科・介護福祉科 100%
- ・平成27年度退学率  
学科別）医療秘書科 4.8% 診療情報管理士科 5.7% 介護福祉科 23.9%
- ・退学率低減のために、新任担任クラスに副担任制度を設け、サポートをしている。
- ・退学率低減のために、保護者との連携を深める取り組みを行っている。また、教員間でも情報共有し、連携したサポートを行っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・これまで介護福祉科は、退学率が一桁だったが、昨年23.9%と高くなってしまった。介護福祉科では、この退学率について会議をしたが、理由としては、「教職員が求める介護福祉士に当てはめすぎようとしたため」「学校にでてくる、学ぶ楽しさを伝えきれてなかった」「学力的に低い学生がこれまでより多く入学してきた」という3点があげられるように思う。

・退学率を下げるためにある学校では、転科などをするなどして対応している。

就職後に卒業生の集いのようなものを行っている学校もある。ひとつの施設が嫌になり退職を選んだ職員を別の施設に紹介できるような仕組みができるといいのではないかな。

保護者の連携は課題ではあると感じる。連携を取るだけでなく、記録に残し、次に活かしていくことが大切であると感じる。有名病院でない限り、就職したのちの職員も保護者も含めサポートしていくことが大切だと感じる。

・就職率は、高いが「卒業生アンケート」からは学生が学校に就職指導をしてもらったという項目が低くなっている。今年は保護者との連携を図るため、新年度保護者に電話をかけコミュニケーションをとることを行っている。

・近年、卒業生も多くなってきた。卒業生の就職のサポートの体制を整えていただけるといいのではないかなと思う。

## (5) 学生支援

【評価項目】	
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3

社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

① 課題

- ・ 課外活動の更なる充実
- ・ 学科毎の就職支援制度の格差

② 今後の改善方策

- ・ 就職支援に関する年間計画、及び各担任指導年間計画の見直しを行い、教員の格差是正と各学科における就職先の求人ニーズを踏まえた就職指導体制の構築を図る。

③ 特記事項

- ・ スクールカウンセラーを設置し、学生を精神面でもサポートをしている。
- ・ 卒業生へのフォローを目的としたホームページ“Sanko Link”を開設している。
- ・ 担任と、地区担当の2名によるダブルフォローアップシステムを実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6) 教育環境

【評価項目】	
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

① 課題

- ・ 更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する
- ・ 防災対策の充実

② 今後の改善方策

- ・ 社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する
- ・ HR 内で、避難訓練等の防災対策の実施（防災訓練等含む）
- ・ 今後に備え、被災時対応として学生用食料等の備蓄を行う。

③ 特記事項

- ・ 介護福祉科において医療的ケアができる設備を完備し、授業で活用している
- ・ 海外研修制度を設け、海外の医療を学べる機会を提供している

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・今年、避難訓練を実施する予定で準備をしている。また、学生・教員用の備蓄を購入する予定で動いている。
- ・公共性を問われるところでもあり、環境を整えていくという部分では足りないところがあると強く感じる。
- ・病院では、警察のOBなどに来てもらっている。経験豊富であり、警察への顔も広いため様々なところで力になってくれる。

### (7) 学生の受入れ募集

【評価項目】	
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

#### ① 課題

- ・定員充足のための学生募集活動

#### ② 今後の改善方策

- ・教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行うことにより、定員充足を目指す
- ・学費支払いが困難である事を理由に進学を辞退する学生も多くなっている為、保護者様に対して入学説明会やパンフレット等を通じ明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかり易く伝える事に努めていく。

#### ③ 特記事項

- ・教務、募集活動、就職の連携を意識し、力を入れ始めている。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

### (8) 財務

【評価項目】	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	3



「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

① 課題

- ・第三者からも理解しやすい財務情報公開

② 今後の改善方策

- ・財務状況を時系列的かつグラフ等を用いる等して、第三者からも理解しやすい工夫をする

③ 特記事項

- ・学園本部および第三者機関による会計監査が定型的に実施されている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】	
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、全ての職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

③ 特記事項

- ・職員向けにコンプライアンス教育を実施。
- ・個人情報の保護・管理の徹底に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	
--------	--

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

「適切」：4 「ほぼ適切」：3 「やや不適切」：2 「不適切」：1

① 課題

- ・地域に対する公開講座について、地域や一般の方に向けた講座が少ない

② 今後の改善方策

- ・地域貢献に繋がる公開講座を積極的に実施していく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ボランティアに関しては、奨励だけでなくしっかりと支援をしていくことが大切だと感じる。